



# MS337 ハンドヘルド スキャナ ユーザーガイド

V1.51



# 目次

---

はじめに.....	1
バーコードの設定方式.....	2
スキャナの操作.....	3
スキャンバッファ.....	3
冗長スキャン.....	4
その他のデコード機能.....	5
同一記号タイムアウト.....	5
LED オプション.....	5
ビーパーオプション.....	6
ビーパーオプション.....	7
データ転送遅延.....	7
通信タイムアウト オプション.....	8
ホストスキャナのコマンド.....	9
ホストスキャナのコマンド.....	10
プレゼンテーションとトリガーモード.....	11
全方向性スキャナモードとリニアスキャナモード.....	12
照準と照射.....	14
データ出力.....	15
文字抑制.....	16
文字抑制.....	17
同一記号タイムアウト.....	18
コードタイプと読み取り規則.....	19
UPC/EAN.....	19
コード 128.....	20
コード 39.....	21
2/5コード.....	23
CODABAR.....	25
コード 93.....	25
コード 11.....	26
TELEPEN.....	26

PLESSEY コード .....	27
ISBT コード 128 の導入 .....	28
RSS バーコードの導入 .....	29
RSS 制限バーコード .....	30
RSS 拡張バーコード .....	30
データマトリックス .....	31
QR コード .....	34
MAXICODE .....	34
AZTEC .....	35
郵便 .....	37
CODABLOCK オプション .....	40
PDF オプション .....	40
追加の読み取り機能 .....	41
設定可能なコード長 .....	42
補助コード .....	エラー! ブックマークが定義されていません。
<b>プリフィックス/サフィックス .....</b>	<b>48</b>
設定可能なプリフィックス (全データ) .....	48
設定可能な ID 文字 (コード特有) .....	49
標準プリフィックス .....	51
標準サフィックス .....	53
前後冗長チェック .....	54
ブロックチェック文字 .....	54
文字の置換 .....	55
設定可能なサフィックス (全データ) .....	56
特殊フォーマット .....	57
<b>コードフォーマット .....</b>	<b>58</b>
UPC/EAN フォーマット .....	58
CODABAR フォーマット .....	60
コード 39 フォーマット .....	61
コード 11 フォーマット .....	61
TELEPEN .....	61
PLESSEY .....	62
2/5 コードフォーマット .....	62

<b>USB</b> .....	<b>63</b>
キーボードエミュレーション有効 .....	64
国/スキャンコードテーブル選択 .....	64
国/スキャンコードテーブル選択 .....	65
キーボード/システムタイプ .....	65
「ダム」ターミナル選択 .....	66
注: 以下のターミナルはカスタムケーブルが必要です。.....	66
特殊キーボード機能.....	67
特殊キーボード機能.....	68
スキャン間遅延.....	69
コントロールセット.....	69
コントロールセット#1.....	69
コントロールセット#1.....	71
<b>コードバイトの使用方法</b> .....	<b>72</b>
コードバイト 0-9.....	72
予約コード.....	73
コードタイプ表.....	73
コードタイプ表.....	74
コードタイプ表.....	75
ASCII 参照表 .....	76
ASCII 参照表 .....	77
拡張キーコード参照表 .....	80
<b>デフォルトに戻す</b> .....	<b>83</b>

## はじめに

---

本製品は工場出荷時にデフォルト値に設定されています。

多くのホストシステムが、それぞれ独自のフォーマットとプロトコルを持っているため、Unitechはこのバーコードベースの設定ツールで選択、設定できる機能を多数提供しています。設定が完了すると、設定は不揮発性メモリ (NOVRAM) に保管されます。NOVRAM に保存された設定内容は、電源を切っても消失しません。



アスタリスク (\*) が付いたバーコードはデフォルト設定です。  
チルダ (~) が付いたバーコードは「マルチコード」設定を行う必要があります。

# バーコードの設定方式

---

## シングルコード方式

ほとんどの機能がシングルコード方式で有効/無効にすることができます。

1. スキャナの電源を入れます。
2. 有効/無効にしたい機能のバーコードをスキャンします。

数回「設定保存」音が鳴ったら、設定内容が NOVRAM に保存されたことを意味しています。

## マルチコード方式

すべての機能はマルチコード方式で有効/無効にすることができます。  
チルダが付いた機能はマルチコード方式を使用する必要があります。

1. スキャナの電源を入れます。
2. [設定モードに入る/終了]バーコードをスキャンします (ピーツという音が 3 回鳴ります)。
3. 有効/無効にしたい機能のバーコードをスキャンします (ピーツという音が 1 回鳴ります)。



[設定モードに入る/終了] バーコードをスキャンする前に、  
複数の機能を有効/無効にすることができます。

4. [設定モードに入る/終了] バーコードをスキャンし (ピーツという音が 3 回鳴ります)、  
新しい設定内容を保存します。



設定の変更を中止するには、[設定モードに入る/終了] コードをスキャンせず  
にスキャナの電源を切ってください。

### 設定モードに入る/終了



## スキャナ操作

---

### スキャンバッファ



\* **1 スキャンバッファ** — スキャンフィールドにある 1 つのバーコードをスキャンし、バーコードを同一記号タイムアウトの間スキャンフィールドから除去するまで再スキャンしません。



-----  
**2 スキャンバッファ** — スキャナはスキャンフィールドの 2 つのバーコードを一度に 1 つずつスキャンします。これら 2 つのバーコードは、同一記号タイムアウトの間スキャンフィールドからこれらを除去するまで再スキャンされません。



-----  
**3 スキャンバッファ** — 2 スキャンバッファと同じ機能ですが、この場合はスキャンフィールドに 3 つのバーコードがあります。



-----  
**4 スキャンバッファ** — 2 スキャンバッファと同じ機能ですが、この場合はスキャンフィールドに 4 つのバーコードがあります。



## スキャナの操作

### 冗長スキャン



\* **0 冗長スキャン** — 「スキャン成功」とみなすためには、バーコードスキャンに 1 回成功する必要があります。



**1 冗長スキャン** — 「スキャン成功」とみなすためには、同じバーコードデータを連続 2 回デコードする必要があります。



**2 冗長スキャン** — 「スキャン成功」とみなすためには、同じバーコードデータを連続 3 回デコードする必要があります。



**3 冗長スキャン** — 「スキャン成功」とみなすためには、同じバーコードデータを連続 4 回デコードする必要があります。



**4 冗長スキャン** — 「スキャン成功」とみなすためには、同じバーコードデータを連続 5 回デコードする必要があります。



**5 冗長スキャン** — 「スキャン成功」とみなすためには、同じバーコードデータを連続 6 回デコードする必要があります。



**6 冗長スキャン** — 「スキャン成功」とみなすためには、同じバーコードデータを連続 7 回デコードする必要があります。



**7 冗長スキャン** — 「スキャン成功」とみなすためには、同じバーコードデータを連続 8 回デコードする必要があります。

## スキャナの操作

### その他のデコード機能



- \* **オプションの同一記号チェック** — 「新しい」バーコードであることを認識させるには、次のバーコードとの間に 1 個の文字を必要とします。



- 標準の同一記号チェック** — 「新しい」バーコードであることを認識させるには、次のバーコードとの間に 3 個の異なる文字を必要とします。

### 同一記号タイムアウト

バーコードをスキャンフィールドから除去した後、そのバーコードを再スキャンできるようになるまでの時間は、50 ミリ秒おきに 6350 ミリ秒 (6.35 秒) までの範囲でユーザーが指定することができます。



- ~ **可変同一記号タイムアウト** — 同一記号タイムアウトの期間を設定するには、設定モードでこのバーコードをスキャンした後、適切なコードバイトのシーケンスをスキャンします。



- 同一記号タイムアウトなし**



- 無限の同一記号タイムアウト** — スキャナは同一バーコードを繰り返しスキャンしません。このオプションは記号再スキャンタイムアウトに優先します。

### LED オプション



- 再スキャン可能になると LED が緑に点滅** — これは同一記号タイムアウトの時間が経過したことを示しています。



- \* **再スキャンできても LED を緑に点滅させない**



- LED 機能を逆転** — 赤 = レーザー オン  
緑 = 読み取り成功



- \* **標準 LED 機能** — 緑 = レーザー オン  
赤 = 読み取り成功

## スキヤナの操作

---

### ビーパーオプション



\* 普通の音



オプショントーン 1



オプショントーン 2



オプショントーン 3



オプショントーン 4



オプショントーン 5



オプショントーン 6



音を鳴らさない



\* 追加で 1 回鳴らす



追加で 2 回鳴らす



高速で音を鳴らす



\* 高速で音を鳴らさない



**BEL コマンドで音を鳴らす** — スキヤナがホストから BEL 文字を受け取るとピーツという音がします。BEL 文字の前に 200 ミリ秒以内に番号が送信されると、スキヤナはその回数だけピーツという音を鳴らします。

## スキヤナの操作

### ビーパーオプション



\* BEL コマンドを無視



ビーブ中のライトペンの切り替えを有効にする — スキヤンに成功すると、スキヤナはビーブという音を鳴らし、ライトペンのデータラインを切り替えます。これは読み取り成功インジケータとなります。



\* ビーブ中のライトペンの切り替えを無効にする

### データ転送遅延

これらのコードを使って、スキヤナからホストへデータ文字を転送する間隔を選択します。この機能は、ホスト入力バッファへのオーバーフローを防止します。



\* 文字間の遅延 1 ミリ秒



文字間の遅延 10 ミリ秒



文字間の遅延 25 ミリ秒



~ 文字間の遅延可変ミリ秒 — このバーコードの後、続けてコードバイトをスキヤンすると、ホストシステムに送信する文字と文字の間隔を設定することができます (1 ミリ秒から 255 ミリ秒の範囲)。



文字間遅延なし



~ 可変レコード間遅延



レコード間遅延の間レーザーをオフにする



\* レコード間遅延の間レーザーをオンしておく

## スキヤナの操作

---

### 通信タイムアウト オプション



通信タイムアウトを有効にする



\* 通信タイムアウトを無効にする



\* 通信前にピーツという音を鳴らす



通信後にピーツという音を鳴らす



~ 可変通信タイムアウト



\* デフォルトの通信タイムアウト (2 秒)



短い通信タイムアウト (1 秒)



長い通信タイムアウト (4 秒)



タイムアウト時に 3 回音を鳴らす



\* タイムアウト時に音を鳴らさない



タイムアウト時にブーという音を鳴らす



\* タイムアウト時にブーという音を鳴らさない

## スキヤナの操作

---

### ホストスキヤナのコマンド



**D/E 無効コマンドを有効にする** — ホスト装置からスキヤナが ASCII の「D」を受信すると、スキヤンできなくなります。ASCII の「E」を受信すると、再びスキヤンできるようになります。

---



\* **D/E 無効を無効にする**

---



**Z/R タイプの D/E シミュレーションを有効にする** — ホスト装置からスキヤナが ASCII の「Z」を受信すると、スキヤンできなくなります。ASCII の「R」を受信すると、再びスキヤンできるようになります。

---



\* **Z/R タイプの D/E シミュレーションなし**

---



**F/L レーザーコマンドを有効にする** — スキヤナが ASCII の「F」を受信すると、スキヤナのレーザーがオフになります。ASCII の「L」を受信すると、レーザーは再びオンになります。

---



\* **F/L レーザーコマンドを無効にする**

---



**DTR スキャン不可を使用する** — スキヤナは DTR 入力を監視して、スキヤンを許可するかどうかを決定します。A +12V 「アクティブ」レベルでデコードが有効になります。A -12V 「非アクティブ」レベルでデコードが無効になります。

---



\* **DTR スキャン不可を使用しない** — DTR 入力を監視しません。

---



**DC2 文字でアクティバート** — DC2 文字 (^R, 124) を受信した時点でスキヤンが実行されます。

---



\* **DC2 文字でアクティバートしない**

## スキャナの操作

---

### ホストスキャナのコマンド



RS232 から「i」(69H)を受信するとスキャナ ID バイトを送信 — ID バイトは 3 バイトで送信されます (例: 0, 0, 1)



\* RS232 から「i」(69H)を受信してもスキャナ ID バイトを送信しない



DC2 アクティベート中に「NO READ」(読み取りなし)を送信



\* DC2 アクティベート中に「NO READ」(読み取りなし)を送信しない



「NO READ」(読み取りなし) 送信中は緑の LED を点灯しない



\* 「NO READ」(読み取りなし)送信中は緑の LED を点灯



シリアル番号を送信

# スキャナの操作

---

## プレゼンテーションとトリガーモード

スキャンの設定モードには、プレゼンテーションモード、マルチ試行トリガーモード、連続トリガーモード、シングルトリガーモードの4つがあります。

### プレゼンテーションモード



### \* マルチ試行トリガーモード



### 連続トリガーモード



### シングルトリガーモード



\* 工場出荷時のデフォルト値



## スキャナの操作

### 全方向性スキャナモードとリニアスキャナモード

本製品は全方向性スキャナとしても、リニアスキャナとしても、あるいは両方を組み合わせたスキャナとしても使用することができます。全方向性スキャンモードとリニアスキャンモードでは、トリガー操作とプレゼンテーション操作を別々に設定することができます。

- 全方向性スキャナとして設定されている場合は、すべての 1D および 2D バーコードは全方向にスキャンされます (まっすぐに合わせなければ正しくスキャンされない、コード 128 のスキャナ設定ラベル以外)。
- リニアスキャナとして設定されている場合は、1D バーコードはまっすぐに合わせなければ正しくスキャンされません。2D バーコードはスキャンされません。
- リニアスキャナおよび全方向性スキャナの両方に設定されている場合は、1D バーコードはまっすぐに合わせなければ正しくスキャンされません。2D バーコードは全方向にスキャンされます。

デフォルトでは、トリガー操作とプレゼンテーション操作は全方向性スキャンモードに設定されています。

#### トリガー操作でリニアのみ有効



#### トリガー操作でリニアのみ無効



#### トリガー操作で 1D リニアのみ有効



#### トリガー操作で 1D リニアのみ無効



\* 工場出荷時のデフォルト値

## スキャナの操作

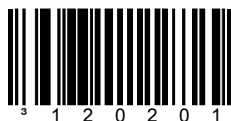
---

### 全方向性スキャナモードとリニアスキャナモード

プレゼンテーション操作でリニアのみ有効



プレゼンテーション操作でリニアのみ無効



プレゼンテーション操作で1D リニアのみ有効    プレゼンテーション操作で1D リニアのみ無効



\* 工場出荷時のデフォルト値

## スキャナの操作

---

### 照準と照射

トリガー操作とプレゼンテーション操作は、本装置のリニア照射を照準装置として使用するために別々に設定することができます。

\* トリガー操作で照準を有効にする



トリガー操作で照準を無効にする



\* プレゼンテーション操作で  
照準を有効にする



プレゼンテーション操作で  
照準を無効にする



\* 自動照射を有効にする



自動照射を無効にする



\* 工場出荷時のデフォルト値

## 照準と照射

\* 自動ゲインを有効にする



自動ゲインを無効にする



## データ出力

\* データ出力を有効にする



データ出力を無効にする



\* 工場出荷時のデフォルト値

## 文字抑制

### 1 文字抑制を有効にする



1 文字を抑制するには:

1. 2 ページの [設定モードに入る/終了] バーコードをスキャンします。
2. [1 文字抑制を有効にする] バーコードをスキャンします。
3. [文字 1] バーコード (下左) をスキャンします。
4. 17 ページの抑制したい文字を示す 3 コードバイトをスキャンします。
5. 2 ページの [設定モードに入る/終了] バーコードをスキャンします。

### \* 1 文字抑制を無効にする



### 2 文字抑制を有効にする



2 文字を抑制するには:

1. 2 ページの [設定モードに入る/終了] バーコードをスキャンします。
2. 上の [2 文字抑制を有効にする] バーコードをスキャンします。
3. [文字 1] バーコード (下左) をスキャンします。
4. 17 ページの抑制する最初の文字を示す 3 コードバイトをスキャンします。
5. [文字 2] バーコード (下右) をスキャンします。
6. 17 ページの抑制する 2 番目の文字を示す 3 コードバイトをスキャンします。
7. 2 ページの [設定モードに入る/終了] バーコードをスキャンします。

### \* 2 文字抑制を無効にする



### 文字 1



### 文字 2



\* 工場出荷時のデフォルト値

## スキヤナの操作

---

### 文字抑制 (コードバイト 0 - 9)



コードバイト 0

---



コードバイト 1

---



コードバイト 2

---



コードバイト 3

---



コードバイト 4

---



コードバイト 5

---



コードバイト 6

---



コードバイト 7

---



コードバイト 8

---



コードバイト 9

## スキャナの操作

---

### 同一記号タイムアウト

トリガーで同一記号タイムアウトを続行



\* トリガーで同一記号タイムアウトをリセット



トリガーを押しても、同一記号タイムアウトはリスタートしません。

トリガーを押すと、同一記号タイムアウトがリスタートします。

\* 工場出荷時のデフォルト値

## コードタイプと読み取り規則



\* 説明にアスタリスク ( \* ) が付いたバーコードは、工場出荷時のデフォルト値です。

チルダ ( ~ ) が付いたバーコードは、「マルチコード」設定を行う必要があります。

### UPC/EAN



\* UPC/EAN を有効にする



UPC/EAN を無効にする



\* UPC-A を有効にする



UPC-A を無効にする



\* UPC-E を有効にする



UPC-E を無効にする



\* EAN-13 を有効にする



EAN-13 を無効にする



\* EAN-8 を有効にする



EAN-8 を無効にする



## コード 128



\* コード 128 を有効にする



-----  
コード 128 を無効にする



-----  
UCC/EAN-128 'J1C1' コードフォーマットを有効にする



\* UCC/EAN - 128 'J1C1' コードフォーマットを無効にする



-----  
<FNC4> コード 128 文字を無視する



\* <FNC4> を使って拡張 ASCII 文字を決定する

## コードタイプと読み取り規則

### コード 39



\* コード 39 を有効にする



コード 39 を無効にする



コード 39 の MOD 43 チェックディジットを有効にする — 有効な Modulo 43 チェックディジットを持つコード 39 のバーコードだけをスキャンします。



\* コード 39 の MOD 43 チェックディジットを無効にする



フル ASCII コード 39 を有効にする



\* フル ASCII コード 39 を無効にする



PARAF (イタリアの医薬コード) サポートを有効にする — コード 39 のバーコードを PARAF フォーマットに変換します。



\* PARAF サポートを無効にする



\* PARAF コードのみ許可する



非 PARAF コードを許可する



TRI-OPTIC コードを有効にする



\* TRI-OPTIC コードを無効にする



\* 標準コード 39 フレーミングを使用



5 バーの倍数なしでコード 39 のバーコードを試す

## コードタイプと読み取り規則

---

### コード 39



ITF/コード 39 フィルタを有効にする



\* ITF/コード 39 フィルタを無効にする



MOD 43 チェックディジットを送信 – セルフサービス ライブラリコード 39 を使って



\* MOD 43 チェックディジットを送信しない – セルフサービス ライブラリコード 39 を使って

# コードタイプと読み取り規則

## 2/5 コード



\* インターリーブ 2/5 を有効にする (ITF)



インターリーブ 2/5 を無効にする (ITF)



ITF で MOD 10 チェックを有効にする — Modulo 10 チェックディジットを持つ、インターリーブ 2/5 (ITF) バーコードのみスキャンします。



\* ITF で MOD 10 チェックを無効にする



ITF Null 文字を許可する



\* ITF Null 文字を許可しない



~ ITF 文字数ロック 1 — 最初の ITF 文字数ロックを指定するには、このバーコードをスキャンし、71 ページのコードバイトをスキャンしてください。



~ ITF 文字数ロック 2 — 2 番目の ITF 文字数ロックを指定するには、このバーコードをスキャンし、71 ページのコードバイトをスキャンしてください。



~ 最低 ITF 文字数 — デコードする最低 ITF 文字数を指定するには、71 ページのコードバイトをスキャンしてください。



標準 2/5 を有効にする

# コードタイプと読み取り規則

## 2/5 コード



\* 標準 2/5 を無効にする



~ 標準 2/5 記号長 — デコードする最低文字数を指定するには、このバーコードをスキャンし、71 ページのコードバイトをスキャンしてください。



Matrix 2/5 を有効にする



\* Matrix 2/5 を無効にする



Matrix 2/5 チェックディジットの条件を有効にする



\* Matrix 2/5 チェックディジットの条件を無効にする



15 桁エアライン 2/5 を有効にする



\* 15 桁エアライン 2/5 を無効にする



13 桁エアライン 2/5 を有効にする



\* 13 桁エアライン 2/5 を無効にする



香港 2/5 を有効にする



\* 香港 2/5 を無効にする

## コードタイプと読み取り規則

---

### CODABAR



\* Codabar を有効にする



-----  
Codabar を無効にする



-----  
デュアルフィールド Codabar を有効にする



-----  
\* デュアルフィールド Codabar を無効にする

### コード 93



\* コード 93 を有効にする



-----  
コード 93 を無効にする

# コードタイプと読み取り規則

---

## コード 11



コード 11 を有効にする



\* コード 11 を無効にする



\* 1 つのコード 11 チェックディジットをチェック



2 つのコード 11 チェックディジットをチェック



\* 2 つのコード 11 チェックディジットをチェックしない



コード長が 10 文字以上 のとき、2 つのコード 11 チェックディジットをチェックする

## TELEPEN



TELEPEN を有効にする



\* TELEPEN を無効にする



ALPHA Telepen を有効にする



\* ALPHA Telepen を無効にする

## コードタイプと読み取り規則

---

### PLESSEY コード



**MSI Plessey を有効にする**



**\* MSI Plessey を無効にする**



**\* MSI Plessey チェックディジットなし** — Plessey バーコードではチェックディジットのテストをしません。



**MSI Plessey MOD 10/10 チェックディジットを有効にする**  
— MSI Plessey バーコードで 2 デジットの Modulo 10 チェックディジットをテストします。



**\* MSI Plessey MOD 10 チェックディジットを有効にする** — MSI Plessey バーコードで 1 デジットの Modulo 10 チェックディジットをテストします。



**UK Plessey を有効にする**



**\* UK Plessey を無効にする**



**UK Plessey A ~ X 変換を有効**



**\* UK Plessey A ~ X 変換を無効**

### PLESSEY コード



**\* 標準 Plessey 中止文字**



**不正な Plessey 中止文字を認める**



## ISBT コード 128 の導入



ISBT コード 128 を有効にする

---



ISBT コード 128 を無効にする

これらのバーコードは、ISBT-128 仕様の 3.5.2 節に記載されているとおり、特殊通信モードを有効/無効にするために使用されます。この出力方式では、コード 128 チェックディジットの正確性を別々に確認することができます。



ISBT 特殊通信を有効にする

---



ISBT 特殊通信を無効にする

これらのバーコードは、ISBT コード 128 データ ID の通信を無効にするために使用します。このオプションを選択すると、スキャンした ISBT バーコードに寄付 ID 番号識別子が含まれていない限り、最初の 2 つのデータ文字がデータストリーム (ID 文字) から削除されます。この場合、ID の最初の 1 文字だけが寄付 ID 番号から削除されます。2 番目の文字は通常のデータとしてみなされます。



ISBT ID を送信しない

---



\* ISBT ID を送信する

これらのバーコードは、フラグディジットにチェックディジットが含まれる、寄付 ID 番号のフラグディジットから Mode 37、2 チェックディジットを変換、通信するために使用します。寄付 ID 番号の通信は、1 つのチェックサム文字に変換される最後の 2 桁を除いて同じです。



フラグディジットから Mod 37 に変換、2 CD

---



\* 標準のフラグディジット通信

## RSS バーコードの導入



**ダブル境界を要求** — RSS バーコードをスキャンする場合は、RSS 記号体系にはよく広いスペースが見られるため、ダブル境界を要求するようお勧めします。



RSS 14 を有効にする



\* RSS 14 を無効にする



\* RSS 14 チェックディジットを送信



RSS 14 チェックディジットを送信しない



\* RSS 14 アプリケーション ID を送信 — デフォルトではアプリケーション識別子「01」が送信されます。



RSS 14 アプリケーション ID を送信しない



\* RSS 14 シンボル ID を送信 — デフォルトで記号体系識別子「]e0」が送信されます。



RSS 14 シンボルを送信しない

## コードタイプと読み取り規則

### RSS 制限バーコード



RSS 制限を有効にする



\* RSS 制限を無効にする



\* RSS 制限 CD を送信



RSS 制限 CD を送信しない



\* RSS 制限アプリケーション ID を送信 — デフォルトではアプリケーション識別子「01」が送信されます。



RSS 制限アプリケーション ID を送信しない



\* RSS 制限シンボル ID を送信 — デフォルトでシンボル識別子「j0」が送信されます。



RSS 制限シンボル ID を送信しない

### RSS 拡張バーコード



RSS 拡張を有効にする



\* RSS 拡張を無効にする



\* RSS 拡張記号 ID を送信 — デフォルトでシンボル識別子「j0」が送信されます。



RSS 拡張記号 ID を送信しない

## データマトリックス

標準色データマトリックス デコードを有効にする      補色データマトリックス デコードを有効にする



標準色および補色データマトリックス デコード \* データマトリックス デコードを無効にする  
を有効にする



矩形のデータマトリックスシンボルデコード  
を有効にする



\* 矩形のデータマトリックスシンボルデコードを  
無効にする



\* 工場出荷時のデフォルト値

## データマトリックス

低コントラスト データマトリックス デコードを有効にする<sup>†</sup>



低コントラストのデータマトリックス記号の読み取り<sup>†</sup>を向上させます。

\* 低コントラスト データマトリックス デコードを無効にする



データマトリックス非正方形モジュールを有効にする<sup>†</sup>



記号の各モジュールが非正方形のとき、データマトリックスの記号の読み取り<sup>†</sup>を向上させます。

\* データマトリックス非正方形モジュールを無効にする



データマトリックスのシフト済みタイル<sup>†</sup>を有効にする<sup>†</sup>



記号の上タイルが下タイルの方へシフトしているとき、データマトリックスのシンボルの読み取り<sup>†</sup>を向上させます。

\* データマトリックスのシフト済みタイルを無効にする



\* 工場出荷時のデフォルト値

† これらのオプションを有効にすると、すべてのバーコードで読み取りに要する時間が長くなります。

## データマトリックス

\* データマトリックスを有効にする (標準サイズ)



小さいサイズの記号のとき、次のバーコードはデータマトリックスシンボルの読み取りを向上させます。これらのいずれかのオプションを無効にするには、上の [データマトリックスを有効にする (標準サイズ)] バーコードをスキャンしてください。

データマトリックスを有効にする (小さいサイズ ↑)      データマトリックスを有効にする (非常に小さいサイズ†)



\* 工場出荷時のデフォルト値

† これらのオプションを有効にすると、すべてのバーコードで読み取りに要する時間が長くなります。

## コードタイプと読み取り規則

---

### QR コード

標準のビデオ QR コードを有効にする



逆ビデオ QR コードを有効にする



標準および逆 QR コードを有効にする



\* QR コードを無効にする



2D 構造追加オフ

\*2D structure append Off



2D 構造追加オン

2D structure append On



### MAXICODE

MaxiCode を有効にする



\* MaxiCode を無効にする



\* 工場出荷時のデフォルト値

## コードタイプと読み取り規則

---

### AZTEC

標準のビデオ Aztec 読み取りを有効にする \* 標準のビデオ Aztec 読み取りを無効にする



逆ビデオ Aztec 読み取りを有効にする



\* 逆ビデオ Aztec 読み取りを無効にする



\* 工場出荷時のデフォルト値



## コードタイプと読み取り規則

### AZTEC

Aztec 構造追加の読み取りを有効にする



\* Aztec 構造追加の読み取りを無効にする



この機能が有効になっている場合は、構造化された追加ヘッダーを持つ Aztec バーコードは、スキャナのメモリバッファに保管されます。構造化された追加バーコードのすべてのコンポーネントが読み取られると、スキャナは連結したメッセージを転送します。最高 16 個のコンポーネントを保管できます。

この機能が無効になっている場合は、構造化された追加ヘッダーを持つ Aztec バーコードは、通常の Aztec バーコードとして読み取られます。ただしこの場合、構造化された追加ヘッダーはバーコードデータの一部分として送信されます。



コード選択と構造化された追加の機能は、同時に使用することはできません。コード選択と構造化された追加の両機能が有効になっている場合は、コード選択機能は作動しません。

コード選択タイムアウトの設定は、同一バーコード内の各コンポーネント間に許可する時間を決定します (コード選択操作に似ています)。

デフォルトにより、スキャナは各コンポーネントがスキャンされるたびに中間音を発します。1 つのスキャンバッファしか有効になっていない場合は、各バーコードコンポーネントを読み取る毎にトリガーを発する必要があります。

\* 中間音を有効にする



中間音を無効にする



[中間音] が無効になっており、スキャンバッファの数が増えた場合は、構造化された追加バーコードのすべてのコンポーネントが 1 回のトリガーで読み取られ、普通のバーコードがスキャンされたときと同じようにビーブ音が 1 回だけ鳴ります。

\* 工場出荷時のデフォルト値

## コードタイプと読み取り規則

---

### 郵便

オーストラリア郵便を有効にする



\* オーストラリア郵便を無効にする



日本郵便を有効にする



\* 日本郵便を無効にする



KIX コードを有効にする



\* KIX コードを無効にする



\* 工場出荷時のデフォルト値

# コードタイプと読み取り規則

---

## 郵便

PLANET コードを有効にする



\* PLANET コードを無効にする



POSTNET コードを有効にする



\* POSTNET コードを無効にする



B & B' フィールド POSTNET  
を有効にする



\* B & B' フィールド POSTNET を無効に  
する



\* 工場出荷時のデフォルト値

# コードタイプと読み取り規則

---

## 郵便

UPU 読み取りを有効にする



\* UPU 読み取りを無効にする



Royal Mail 4 コードを有効にする



\* Royal Mail 4 コードを無効にする



Zero-FCC オーストラリア  
郵便を有効にする



\* Zero-FCC オーストラリア郵便を無効にする



\* 工場出荷時のデフォルト値

## コードタイプと読み取り規則

---

### CODABLOCK オプション

Codablock A を有効にする



\* Codablock A を無効にする



Codablock F を有効にする



\* Codablock F を無効にする



### PDF オプション

¥ を ¥ として転送する



\* ¥ を ¥¥ として転送する



\* 工場出荷時のデフォルト値

## 追加の読み取り機能



ダブル境界要求/大きい文字間隔を有効にする



\* ダブル境界要求/大きい文字間隔を無効にする



小さい境界要求を有効にする



\* 小さい境界を無効にする



~ 最低文字数 — シングルラインのデフォルトは 3 です。このコードと適切なコードバイト ( ページ ) を組み合わせて、すべての非 UPC/EAN バーコードの最低文字数を指定してください。



~ 文字数ロック — このコードと適切なコードバイトを組み合わせ、バーコードの長さをロックします。



バーおよびスペースカウント上のモジュール 8 フィルタを有効にする



\* バーおよびスペースカウント上のモジュール 8 フィルタを無効にする



コード 39 の不正境界を処理する



\* コード 39 の不正境界を無効にする

# コードタイプと読み取り規則

## 設定可能なコード長

7つのバーコード ロック長があります。ロック長には特定のコードタイプを割り当てることができます。プログラミングモードのとき:

1. [コード長ロック #1] バーコードをスキャンします。
2. コード長を示す 3 つのコードバイトをスキャンします (72 ページ)。
3. 一致する [タイプロック #1] バーコードをスキャンします。
4. コードタイプを示す 3 つのコードバイトをスキャンします。

ロック長 2 から 7 までこの手順を繰り返すことができます。



~ コード長ロック #1



~ コードタイプロック #1



~ コード長ロック #2



~ コードタイプロック #2



~ コード長ロック #3



~ コードタイプロック #3



~ コード長ロック #4



~ コードタイプロック #4



~ コード長ロック #5



~ コードタイプロック #5

## コードタイプと読み取り規則

---

### 設定可能なコード長



~ コード長ロック #6



~ コードタイプロック #6



~ コード長ロック #7



~ コードタイプロック #7



## コードタイプと読み取り規則

---

### 補助コード



2桁の補助コードを有効にする



\* 2桁の補助コードを無効にする



\* 2桁の冗長を有効にする — スキャナはバーコードと2桁の付加を2回スキャンした後でデータを受け入れます。



2桁の冗長を無効にする



5桁の補助コードを有効にする



\* 5桁の補助コードを無効にする



5桁の冗長を有効にする — スキャナはバーコードと5桁の付加を2回スキャンした後でデータを受け入れます。



\* 5桁の冗長を無効にする



補助コード必須 — スキャンされたすべてのUPC/EANラベルには補助コードが必要です。



\* 補助コード不要



リモート補助コード要求を有効にする



\* リモート補助コード要求を無効にする

## コードタイプと読み取り規則

---

### 補助コード



**Bookland (978) 補助コード要求を有効にする**



**\* Bookland (978) 補助コード要求を無効にする**



**977 (2桁) 補助コード要求を有効にする** — EAN-13 コードが 977 で始まる時、スキャナがスキャンを行うには、2桁の補助コードが必要になります。



**\* 977 (2桁) 補助コード要求を無効にする**



**378/379 フランス補助コード要求を有効にする**



**\* 378/379 フランス補助コード要求を無効にする**



**414/419 ドイツ Bookland 補助コード要求を有効にする**



**\* 414/419 ドイツ Bookland 補助コード要求を無効にする**



**434/439 ドイツ補助コード要求を有効にする**



**\* 434/439 ドイツ補助コード要求を無効にする**



**# システム 2 の補助コード要求を有効にする**



**\* # システム 2 の補助コード要求を無効にする**



**UPC # システム 5 の補助コード要求を有効にする**



**\* UPC # システム 5 の補助コード要求を無効にする**

## コードタイプと読み取り規則

### 補助コード



- \* 37x、43x、または UPC # システム 5 で 2 桁の補助コードを有効にする



37x、43x、または UPC # システム 5 で 2 桁の補助コードを無効にする



- \* 37x、43x、または UPC # システム 5 で 5 桁の補助コードを有効にする



37x、43x、または UPC # システム 5 で 5 桁の補助コードを無効にする



クーポンコード 128 を有効にする



- \* クーポンコード 128 を無効にする



コード 128 'JC1' 拡張コードフォーマットを有効にする – スキャナはクーポンコードのコード 128 の部分の始めに 'JC1' を送信します。



- \* コード 128 'JC1' 拡張コードフォーマットを無効にする



コード 128 グループ分離符号を有効にする – クーポンコード 128 コードと一緒に“GS”(1DH) 文字を送信します。



- \* コード 128 グループ分離符号を無効にする



400 ミリ秒で補助コードを検出 – スキャナはメインの UPC/EAN バーコードをスキャンした後、補助コードを検出するまでの時間として 400 ミリ秒を割り当てます。



200 ミリ秒で補助コードを検出 – スキャナはメインの UPC/EAN バーコードをスキャンした後、補助コードを検出するまでの時間として 200 ミリ秒を割り当てます。



- \* 100 ミリ秒で補助コードを検出 – スキャナはメインの UPC/EAN バーコードをスキャンした後、補助コードを検出するまでの時間として 100 ミリ秒を割り当てます。

## 補助コード



補助コードを持つコード ID を有効にする



\* 補助コードを持つコード ID を無効にする



\* 補助コードで 1 回音を鳴らす



補助コードで 2 回音を鳴らす



ISBN チェックディジット通信を有効にする — 現在全モデルで使用できません



ISBN チェックディジット通信を無効にする



Bookland から ISBN への変換を有効にする — 現在全モデルで使用できません



\* Bookland から ISBN への変換を無効にする



ISBN リフォーマットを有効にする



\* ISBN リフォーマットを無効にする

## プリフィックス/サフィックス



これらの機能を設定する前に、[設定モードに入る] バーコードをスキャンしてください

(2 ページの「マルチコード方式」を参照)。

### 設定可能なプリフィックス(全データ)



~ **設定可能なプリフィックス #1** — データ通信にはプリフィックス ID を追加し、割り当てることができます。このコードと、任意の文字を代表するコードバイト (72 ページ参照) を使用します。



~ **プリフィックス #2 を設定** — 2 番目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



~ **プリフィックス #3 を設定** — 3 つ目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



~ **プリフィックス #4 を設定** — 4 番目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



~ **プリフィックス #5 を設定** — 5 番目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



~ **プリフィックス #6 を設定** — 6 番目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



~ **プリフィックス #7 を設定** — 7 つ目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



~ **プリフィックス #8 を設定** — 8 番目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



~ **プリフィックス #9 を設定** — 9 番目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



~ **プリフィックス #10 を設定** — 10 番目の設定可能なプリフィックス文字を割り当てます。



\* **すべての設定可能なプリフィックスをクリア**

## プリフィックス/サフィックス

---

### 設定可能な ID 文字 (コード特有)



\* 設定可能なコード ID バイトをプリフィックスとして使う - データの前に、ユーザーが設定したコード特有の ID バイトを送信します。プリフィックスを使用している場合は、ユーザー指定のサフィックスは使用できません。

---



設定可能なコード ID バイトをサフィックスとして使う - データの後に、ユーザーが設定したコード特有の ID バイトを送信します。サフィックスを使用している場合は、ユーザー指定のプリフィックスは使用できません。

‡ 設定モードに入り、このバーコードの後に、このバーコードタイプに関連付けられた専用の ID 文字を表す 3 つのコードバイトのバーコード (71 ページ) をスキャンします。



~ 設定可能な UPC-A ID ‡

---



~ 設定可能な UPC-E ID ‡

---



~ 設定可能な EAN-8 ID ‡

---



~ 設定可能な EAN-13 ID ‡

---



~ 設定可能なコード 39 ID ‡

---



~ 設定可能なコード 128 ID ‡

---



~ 設定可能なコード 93 ID ‡

---



~ 設定可能なコード 11 ID ‡

## プリフィックス/サフィックス

---

### 設定可能な ID 文字 (コード特有)

‡ 設定モードに入り、このバーコードの後に、このバーコードタイプに関連付けられた専用の ID 文字を表す 3 つのコードバイトのバーコード (72 ページ) をスキャンします。



~ 設定可能な TRI-OPTIC ID ‡



~ 設定可能な標準 2/5 ID ‡



~ 設定可能なインターリーブ 2/5 ID ‡



~ 設定可能なマトリックス 2/5 ID ‡



~ 設定可能なエアライン 2/5 ID ‡



~ 設定可能な MSI Plessey ID ‡



~ 設定可能な UK Plessey ID ‡



~ 設定可能な Codabar ID ‡



\* すべての設定可能なコード専用 ID をクリア — 以前識別したすべての専用 ID 文字をクリアします。



Teraoka ID を有効にする



\* Teraoka ID を無効にする

## プリフィックス/サフィックス

### 標準プリフィックス



**STX プリフィックスを有効にする** — スキャナは各バーコードの前に「Start of TeXt (テキスト開始)」(ASCII 02H) を送信します。



\* **STX プリフィックスを無効にする**



**Rochford-Thomson モードを有効にする**



\* **Rochford-Thomson モードを無効にする**



**AIM ID 文字を有効にする**



\* **AIM ID 文字を無効にする**



**UPC プリフィックス ID を有効にする** — スキャナが UPC/EAN バーコードの前にプリフィックスを送信します。プリフィックスは A (UPC-A)、E0 (UPC-E)、F (EAN-13)、FF (EAN-8) となります。



\* **UPC プリフィックス ID を無効にする**



**NCR プリフィックス ID** — スキャナは次のコードタイプの前にプリフィックスを送信します。プリフィックスは次の通りです。A (UPC-A)、E0 (UPC-E)、FF (EAN-8)、F (EAN 13)、B1 (コード 39) B2 (ITF)、B3 (コード 128 およびその他のコード)



\* **NCR プリフィックス ID を無効にする**



**Nixdorf ID 文字を有効にする** — このオプションは多くの Siemen/Nixdorf レジスター用各バーコードの前に、コード ID を送信します。



\* **Nixdorf ID 文字を無効にする**



## プリフィックス/サフィックス

---

### 標準プリフィックス



SANYO ID 文字を有効にする



\* SANYO ID 文字を無効にする



メーカー ID プリフィックスを有効にする



\* メーカー ID プリフィックスを無効にする



“C” プリフィックスを有効にする



\* “C” プリフィックスを無効にする



UPC/EAN 用 “\$” プリフィックス ID を有効にする



\* UPC/EAN 用 “\$” プリフィックス ID を無効にする



Tab プリフィックスを有効にする — スキャナは各バーコードの前に TAB (ASCII 09H) を送信します。



\* Tab プリフィックスを無効にする



SNI Beetle モードを有効にする



\* SNI Beetle モードを無効にする



Cipher 1021 ID を有効にする



\* Cipher 1021 ID を無効にする

## 標準サフィックス



\* **CR サフィックスを有効にする** — スキャナは各バーコードの後に改行を送信します。



**CR サフィックスを無効にする。**



\* **LF サフィックスを有効にする** — スキャナは各バーコードの後に改行を送信します。キーボードウェッジのデフォルトが読み込まれている場合は、無効になります。



**LF サフィックスを無効にする**



**Tab サフィックスを有効にする** — スキャナは各バーコードの後に TAB (ASCII 09H) を送信します。



\* **Tab サフィックスを無効にする**



**ETX サフィックスを有効にする** — スキャナはバーコードの日付の後に、「End of TeXt (テキスト終了)」(ASCII 03H) を送信します。



\* **ETX サフィックスを無効にする**



**UPC サフィックス ID を有効にする** — スキャナが UPC/EAN バーコードの後にサフィックスを送信します。サフィックスは A (UPC-A)、E (UPC-E)、F (EAN-13)、F (EAN-8) となります。



\* **UPC サフィックス ID を無効にする**

## 前後冗長チェック

前後冗長チェック (LRC) は、データ文字のシーケンスを計算するエラーチェック文字です。チェックされる文字は eXclusive ORing (XOR) によって決定され、最初の値 00H から開始されます。

結果の「LRC バイト」がデータストリームの後に送信され、受信コンピュータによって情報が正しく受信されたかどうかを決定するために使用されます。XOR はスキャナのケースでパリティビットを追加する前に実行されます。

LRC が有効になっている場合は、スキャナはデフォルトで、転送された情報の 2 番目のバイトで LRC を開始します。オプションにより、送信した最初のバイトで計算を開始するように設定することもできます。



**LRC 計算の通信を有効にする** — スキャナはバーコードの後に LRC チェック文字を出力します。



\* **LRC 計算の通信を無効にする**



\* **最初のバイトで LRC を開始** — スキャナは最初の文字から LRC チェックディジットを計算します。



**2 番目のバイトで LRC を開始** — スキャナは 2 番目の文字から LRC チェックディジットを計算します。

## ブロックチェック文字



\* **NCR BCC を有効にする**



**NCR BCC を無効にする**

### 文字の置換

文字を置き換えるには:

1. [設定モードに入る/終了] バーコードをスキャンします (2ページ)。
2. [置換前の文字] コードをスキャンします (下)。
3. 置換えたい文字の ASCII コード バイト値をスキャンします (本書の「コードバイト使用方法」セクションにある「ASCII 参照表」を参照してください)。
4. 置換文字バーコードをスキャンします (下)。
5. 置換文字の ASCII コードバイト値をスキャンします。
6. [設定モードに入る/終了] バーコードをスキャンします (2ページ)。



~ 置換前の文字



~ 置換後の文字



置換なし

## プリフィックス/サフィックス

### 設定可能なサフィックス (全データ)

注意: この機能を設定する前に、[設定モードに入る/終了] コードをスキャンします。2ページの「マルチコード方式」を参照してください。



~ **設定可能なサフィックス #1** — データ通信にはサフィックス ID を追加し、割り当てることができます。  
このコードと、任意の文字を代表する 3 コードバイト (71 ページ参照) を使用します。



~ **サフィックス #2 を設定** — 2 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



~ **サフィックス #3 を設定** — 3 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



~ **サフィックス #4 を設定** — 4 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



~ **サフィックス #5 を設定** — 5 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



~ **サフィックス #6 を設定** — 6 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



~ **サフィックス #7 を設定** — 7 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



~ **サフィックス #8 を設定** — 8 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



~ **サフィックス #9 を設定** — 9 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



~ **サフィックス #10 を設定** — 10 番目の設定可能なサフィックス文字を割り当てます。



\* **すべての設定可能なサフィックスをクリア**

特殊フォーマット



SINEKO モードを有効にする



\* SINEKO モードを無効にする



Newcode フォーマットモード A を有効にする



\* Newcode フォーマットモード A を無効にする



Newcode フォーマットモード B を有効にする



\* Newcode フォーマットモード B を無効にする



すべての先頭のゼロを削除



\* 先頭のゼロを削除しない



HCA 解析を有効にする



HCA 解析を無効にする

## コードフォーマット

---

### UPC/EAN フォーマット



\* UPC-A チェックディジットを送信する



-----  
UPC-A チェックディジットを送信しない  
-----



UPC-E チェックディジットを送信する



\* UPC-E チェックディジットを送信しない



-----  
UPC-E を 12 桁に拡張する — UPC-E バーコードを 12 桁相当の UPC-A バーコードに拡張します。  
-----



\* UPC-E を 12 桁に拡張しない



-----  
GTIN フォーマットを有効にする  
-----



\* GTIN フォーマットを無効にする



-----  
UPC-A を EAN-13 に変換する — バーコードの前に先頭のゼロを送信することにより、UPC-A を EAN-13 に変換します。  
-----



\* UPC-A から EAN-13 に変換しない



-----  
UPC-E で先頭のゼロを送信する — 各 UPC-E バーコードの前にゼロを送信します。  
-----



\* UPC-E で先頭のゼロを送信しない  
-----

## コードフォーマット

---



**EAN-8 を EAN-13 に変換する** - バーコードの前に5つのゼロを送信して、EAN-8 を EAN-13 に変換します。



**\* EAN-8 から EAN-13 に変換しない**



**\* UPC-A 番号システムを通信**



**UPC-A 番号システムを通信しない**



**\* UPC-A MFR # を送信**



**UPC-A MFR # を送信しない**



**\* UPC-A ITEM # を送信**



**UPC-A ITEM # を送信しない**



**\* EAN-8 チェックディジットを送信**



**EAN-8 チェックディジットを送信しない**



**\* EAN-13 チェックディジットを送信** - スキャナが EAN-13 チェックディジットを送信します。



**EAN-13 チェックディジットを送信しない**



## コードフォーマット

---

### CODABAR フォーマット



**Codabar 開始/中止文字を送信** — 各バーコードの前と後に、Codabar の開始文字と中止文字を送信します。



\* **Codabar 開始/中止文字を送信しない**



**CLSI 編集を有効にする** — 14 デジット Codabar タイプ文字数とのみ使用できます。このオプションは情報をホストに送信する前に、CLSI タイプ編集を実行します。



\* **CLSI 編集を有効にしない**



**Codabar Mod-16 チェックデジットを有効にする**



\* **Codabar Mod-16 チェックデジットを無効にする**



**Codabar “7-Check” チェックデジットを有効にする**



\* **Codabar “7-Check” チェックデジットを無効にする**



\* **Codabar チェックデジットを送信**



**Codabar チェックデジットを送信しない**

## コードフォーマット

---

### コード 39 フォーマット



**コード 39 で Mod 43 チェックディジットを送信** — この機能は21ページの「コード 39 の Mod 43 チェックディジット」オプションと合わせて使用します。この機能を使用するには、両方を有効にする必要があります。



\* **コード 39 で Mod 43 チェックディジットを送信しない**



**コード 39 中止/開始文字を送信** — スキャナが各バーコードの前と後に、コード 39 の開始文字と中止文字を送信します。



\* **コード 39 中止/開始文字を送信しない**



**イタリア医療の場合、“A” (41H) プリフィックスを送信**



\* **イタリア医療の場合、“A” (41H) プリフィックスを送信しない**

### コード 11 フォーマット



**コード 11 チェックディジットを送信しない** — このバーコードは、26ページの「コード 11 を有効にする」と合わせて使用したとき、コード 11 チェック文字を送信します。



\* **コード 11 チェックディジットを送信しない**

### TELEPEN



**Telepen ^L を E に変換**



\* **Telepen ^L を E に変換しない**

## コードフォーマット

---

### PLESSEY



**UK Plessey チェックディジットを送信** — スキャナが UK Plessey チェックディジット文字を送信します。UK Plessey オプションと合わせて使用する必要があります。

---



\* **UK Plessey チェックディジットを送信しない**

---



**UK Plessey 特殊フォーマットを有効にする**

---



**UK Plessey 特殊フォーマットを無効にする**

---



**MSI Plessey チェックディジットを送信** — このオプションは、27 ページの「MSI Plessey Mod を有効にする」オプションの 1 つ、または両方と合わせて使用します。

---



\* **MSI Plessey チェックディジットを送信しない**

---

### 2/5 コードフォーマット



**ITF で Mod 10 チェックディジットを送信** — スキャナがインターリーブ 2/5 (ITF) Mod 10 チェック文字を送信します。

---



\* **ITF で Mod 10 チェックディジットを送信しない** — ITF で Mod 10 チェックと一緒に使用します。この機能を使用するには、両方を有効にする必要があります。

---



**マトリックス 2/5 チェックディジットを送信**

---



\* **マトリックス 2/5 チェックディジットを送信しない**

---

# USB

---



\* USB キーボードエミュレーション モードを有効にする



-----  
USB シリアルモードを有効にする



-----  
バーコード ID を有効にする



-----  
バーコード ID を無効にする



-----  
USB 予約コード #1 を有効にする



-----  
USB 予約コード #1 を無効にする



-----  
USB 予約コード #2 を有効にする



-----  
USB 予約コード #2 を無効にする



-----  
USB デフォルトを無効にする



-----  
補助デフォルトを無効にする



-----  
IBM 1520 コードフラグ エミュレーションを有効にする -  
UPC コード ID と ITF コード ID はそのまま同じですが、そ  
の他すべてのコード ID はコード 39 (IBM OEM スキャナモ  
ード) として通信されます。



-----  
IBM 1520 コードフラグ エミュレーションを無効にする

## キーボード

---

### キーボードエミュレーション有効



**キーボードウエッジ標準値読み込み** - キーボードウエッジモードの標準設定値を読み込みます。



**スタンドアロンキーボードエミュレーション有効** - 外部キーボードに接続されていない特別なスタンドアロンモデルで使  
用します。スタンドアロンモードを有効にするためにこのバー  
コードをスキャンします。スキャナはキーボード「電源オン」情  
報を送信し、通常のキーボード接続をシミュレートするよう  
にハードウェアを設定します。



\* **キーボードウエッジエミュレーション有効** -外部キーボードを接  
続して使用します。バーコードデータが無い場合に、標準の  
PCキーボードから送信します。

### 国/スキャンコードテーブル選択



\*米語 (USA) キーボード



スイス語キーボード



スペイン語キーボード



イタリア語キーボード



ドイツ語キーボード



フランス語キーボード



英語 (UK) キーボード

## キーボード

---

### 国/スキャンコードテーブル選択



ベルギー語キーボード

---



日本語キーボード

---



IBM4700 財務用キーボード

---



スウェーデン語/フィンランド語キーボード

### キーボード/システムタイプ



\* AT キーボード - IBM PS/2 および互換モデル 50, 55, 60, 80 を含む

---



XT キーボード

---



PS/2 キーボード - IBM PC および互換モデル 30, 70, 8556 を含む

---



ターミナルキーボードエミュレーション有効

---



XT キーボードモード1有効 - Voyager 特殊ファームウェア

---



XT キーボードモード2有効 - Voyager 特殊ファームウェア

## キーボード

---

### 「ダム」ターミナル選択

注: 以下のターミナルはカスタムケーブルが必要です。



IBM ターミナルキーボード



ターミナルキーボード予約#2



ターミナルキーボード予約#3



ターミナルキーボード予約#4



ターミナルキーボード予約#5



ターミナルキーボード予約#6



ターミナルキーボード予約#7



ターミナルキーボード予約#8



小文字ロックオン - 全ての文字を小文字で送信



小文字ロックオフ

## キーボード

### 特殊キーボード機能



メーカーコードのみ送信 - すべてのモデルで使用できません



\* メーカー/ブレイクコード送信 - すべてのモデルで使用できません



\* FOH ブレイクコード送信 - スキャナは、ブレイクコードシーケンスで FOH を送信



FOH ブレイクコード送信せず



クリーンアップビット送信 - 特定の NEC コンピュータで使用



\* クリーンアップビット送信しない



Alt モード有効 - スキャナは以下のキーボードシーケンスを行います; Alt キー押し下げ, 適当な文字に対応する数字をタイプ。



Alt モード無効 - 注: ホストソフトウェアアプリケーションが右 Alt キーを“ホット”キーとして使用している場合、Alt モードを無効にしなければなりません。



自動検出モード有効 (AT/PS2) - 自動的に Caps Lock 状態を検出



\* 自動検出モード無効 (AT/PS2)



Caps Lock 有効 (XT)



\* Caps Lock 無効 (XT)



## キーボード

---

### 特殊キーボード機能



キーボードデータとして数字を送信 – すべてのデータはキーボード上で入力されたかのように送信されます。



\* 通常データとして数字を送信



予約機能有効



\* 予約機能無効



\* 拡張キーコード送信のために拡張ASCIIを使用 – F1, F2等のPCキーボードキーを送信するために、拡張ASCII文字を使用します。



拡張ASCIIとして拡張ASCII文字を使用 - Alt モードを通して拡張ASCII文字を送信



\* KB文字抑制



メッセージ KB 抑制



右 Alt キーシーケンス有効



右 Alt キーシーケンス無効



LaCaixa特殊キーボードプリフィックス&サフィックススキャンコード有効



\* LaCaixa特殊キーボードプリフィックス&サフィックススキャンコード無効

# キーボード

---

## スキャン間遅延



\* **スキャン間遅延800ミリ秒** -指定した時間は、個々の11ビットスキャンコード間の時間を表します。このパラメータは、PC キーボードBIOSの動作によって調整する必要があるかもしれません。

---



**スキャン間遅延7.5ミリ秒** -指定した時間は、個々の9ビットスキャンコード間の時間を表します。このパラメータは、PC キーボードBIOSの動作によって調整する必要があるかもしれません。

---



**スキャン間遅延15ミリ秒** -指定した時間は、個々の11ビットスキャンコード間の時間を表します。このパラメータは、PC キーボードBIOSの動作によって調整する必要があるかもしれません。

---



~**スキャン間遅延可変ミリ秒** -2ページの マルチ-コード法をご覧ください。100ミリ秒単位で設定できます。

## コントロールセット

一般に、標準のバーコードシンボルは ASCII 文字セットのみをエンコードします。IBM 互換キーボードのファンクションキー、矢印キーと多数の拡張キーは、ASCII 文字には変換されません。「バーコード印刷された」拡張キーを使用する方法の一つは、指定した ASCII コントロール文字がバーコード中で見つかったときに、拡張キーコードに置き換えることです。

### コントロールセット#1



**コントロールセット#1有効**

---



\* **コントロールセット#1無効**

## 追加設定

PCとの接続によっては、接続中に意図せず、自動的にリセットがかかってしまうことがあります。このような場合、以下のスリープ無効と電源オフ無効のバーコードを読ませて下さい。



スリープ無効



\* アクティブで無くなってから1秒後に、  
スリープを有効にする



電源オフ無効

## キーボード

### コントロールセット#1

ASCII (HEX)	ASCII コントロール	拡張キー
00H	Null	数字キーパッド + (プラス)
01H	SOH	数字ロック(Num Lock)
02H	STX	下矢印
03H	ETX	数字キーパッド - (マイナス)
04H	EOT	挿入 Insert
05H	ENQ	削除 Delete
06H	ACK	システム要求 System Request
07H	BEL	→ 右矢印
08H	BS	← 左矢印
09H	TAB	タブ Tab
0AH	LF	Caps Lock
0BH	VT	Shift Tab
0CH	FF	左 Alt
0DH	CR	Enter
0EH	SO	左 Control
0FH	SI	上矢印
10H	DLE	F1
11H	DC1	F2
12H	DC2	F3
13H	DC3	F4
14H	DC4	F5
15H	NAK	F6
16H	SYN	F7
17H	ETB	F8
18H	CAN	F9
19H	EM	F10
1AH	SUB	Home
1BH	ESC	Esc
1CH	FS	Page Up
1DH	GS	Page Down
1EH	RS	Print Screen
1FH	US	End

## コードバイトの使用方法



これらのコードバイトを使用する機能を設定する場合は、スキャナを「設定モード」にしておく必要があります。設定を開始する前に、「設定モードに入る/終了」(2 ページ) バーコードをスキャンしておいてください。

例: ユーザー設定が可能なプリフィックス/サフィックス文字は、コードバイト バーコードを使って、3 桁の十進法相当の ASCII 文字を適切な文字位置にスキャンすることにより保存することができます。

アスタリスク (\*) をプリフィックスとして追加する場合は、次の順番でバーコードをスキャンしてください。

1. 設定モードに入る/終了 (3 回ピーブ音)
2. 設定可能なプリフィックス #1 (1 回ピーブ音)
3. コードバイト 0 (1 回ピーブ音)
4. コードバイト 4 (2 回ピーブ音)
5. コードバイト 2 (3 回ピーブ音)
6. 設定モードに入る/終了 (3 回ピーブ音)

### コードバイト 0-9



コードバイト 0



コードバイト 1



コードバイト 2



コードバイト 3



コードバイト 4



コードバイト 5



コードバイト 6



コードバイト 7



コードバイト 8



コードバイト 9

## コードバイトの使用法

### 予約コード



~ 予約コードを有効にする



~ 予約コードを無効にする

### コードタイプ表

DDD (プリフィックス)	(10 進)	(16 進)	コメント(シンボル)
002	2	02h	UPC-E
003	3	03h	EAN-8
004	4	04h	UPC-A
005	5	05h	EAN-13
012	12	0Ch	UPC-E + 2 桁補助コード
013	13	0Dh	EAN-8 + 2 桁補助コード
014	14	0Eh	UPC-E + 2 桁補助コード
015	15	0Fh	EAN-13 + 2 桁補助コード
022	22	16h	UPC-E + 5 桁補助コード
023	23	17h	EAN-8 + 5 桁補助コード
024	24	18h	UPC-E + 5 桁補助コード
025	25	19h	EAN-13 + 5 桁補助コード
032	32	20h	UPC-E + クーポンコード 128 補助コード
033	33	21h	EAN-8 + クーポンコード 128 補助コード
034	34	22h	UPC-A + クーポンコード 128 補助コード
035	35	23h	EAN-13 + クーポンコード 128 補助コード
080	80	50h	コード 39
081	81	51h	Codabar
082	82	52h	国際 2/5
083	83	53h	コード 128
084	84	54h	コード 93
091	91	5Bh	MSI Plessey
092	92	5Ch	コード 11
093	93	5Dh	エアライン 2/5 (15 桁)

## コードバイトの使用方法

### コードタイプ表

DDD (プリフィックス)	(10 進)	(16 進)	コメント(シンボル)
094	94	5Eh	マトリックス 2/5
095	95	5Fh	Telepen
096	96	60h	UK Plessey
097	97	61h	エアライン 2/5 (13 桁)
098	98	62h	標準 2/5
099	99	63h	Trioptic
101	101	65h	RSS-14
102	102	66h	RSS - 制限
103	103	67h	RSS - 拡張
104	104	68h	PDF コード
105	105	69h	Micro PDF
106	106	6Ah	データマトリックス
107	107	6Bh	Aztec コード
108	108	6Ch	QR コード
109	109	6Dh	MaxiCode
110	110	6Eh	PostNet
111	111	6Fh	PLANET
112	112	70h	UPU
113	113	71h	オーストラリア郵便
114	114	72h	日本郵便
115	115	73h	KIX
116	116	74h	Royal Mail 4 (英国郵便)
117	117	75h	Codablock A
118	118	76h	Codeblock F
119	119	77h	EAN-128
120	120	78h	USPS 4CB (OneCode)
121	121	79h	GoCode
160	160	A0h	OCR ユーザーテンプレート
161	161	A1h	OCR パスポートテンプレート - 低解像度
162	162	A2h	OCR パスポートテンプレート - 高解像度
163	163	A3h	OCR ISBN テンプレート

## コードバイトの使用方法

### コードタイプ表

DDD (プリフィックス)	(10 進)	(16 進)	コメント (シンボル)
164	164	A4h	OCR 値段欄テンプレート
165	165	A5h	OCR MICR-E13B テンプレート
166	166	A6h	OCR Visa A 上段テンプレート
167	167	A7h	OCR Visa A 下段テンプレート
168	168	A8h	OCR Visa A 上段テンプレート
169	169	A9h	OCR Visa A 上段テンプレート
170	170	AAh	OCR 旅券 1 上段テンプレート
171	171	ABh	OCR 旅券 1 中段テンプレート
172	172	ACh	OCR 旅券 1 下段テンプレート
173	173	ADh	OCR 旅券 2 上段テンプレート
174	174	A Eh	OCR 旅券 2 下段テンプレート



## コードバイトの使用方法

---

### ASCII 参照表

HEX 値	10 進値/ コードバイト値	文字	相当するキーボード 操作
00	000	NUL	@
01	001	SOH	A
02	002	STX	B
03	003	ETX	C
04	004	EOT	D
05	005	ENQ	E
06	006	ACK	F
07	007	BEL	G
08	008	BS	H
09	009	HT	I
0A	010	LF	J
0B	011	VT	K
0C	012	FF	L
0D	013	CR	M
0E	014	SO	N
0F	015	SI	O
10	016	DLE	P
11	017	DC1	Q
12	018	DC2	R
13	019	DC3	S
14	020	DC4	T
15	021	NAK	U
16	022	SYN	V
17	023	ETB	W
18	024	CAN	X
19	025	EM	Y
1A	026	SUB	Z
1B	027	ESC	[
1C	028	FS	\

## コードバイトの使用方法

### ASCII 参照表

HEX 値	10 進値/ コードバイト値	文字	相当するキーボード 操作
1D	029	GS	^
1E	030	RS	_
1F	031	US	スペース、ブランク
20	032	SP	
21	033	!	
22	034	"	
23	035	#	
24	036	\$	
25	037	%	
26	038	&	
27	039	'	アポストロフィ
28	040	(	
29	041	)	
2A	042	*	
2B	043	+	
2C	044	,	コンマ
2D	045	-	マイナス
2E	046	.	ピリオド
2F	047	/	
30	048	0	数字の 0
31	049	1	数字の 1
32	050	2	
33	051	3	
34	052	4	
35	053	5	
36	054	6	
37	055	7	
38	056	8	
39	057	9	
3A	058	:	
3B	059	;	

## コードバイトの使用方法

### ASCII 参照表

HEX 値	10 進値/ コードバイト値	文字	相当するキーボード 操作
3C	060	<	以下
3D	061	+	
3E	062	>	以上
3F	063	?	
40	064	@	shift P
41	065	A	
42	066	B	
43	067	C	
44	068	D	
45	069	E	
46	070	F	
47	071	G	
48	072	H	
49	073	I	I 文字
4A	074	J	
4B	075	K	
4C	076	L	
4D	077	M	
4E	078	N	
4F	079	O	O 文字
50	080	P	
51	081	Q	
52	082	R	
53	083	S	
54	084	T	
55	085	U	
56	086	V	
57	087	W	
58	088	X	
59	089	Y	

## コードバイトの使用方法

### ASCII 参照表

HEX 値	10 進値/ コードバイト値	文字	相当するキーボード操作
5A	090	Z	
5B	091	[	shift K
5C	092	\	shift L
5D	093	]	shift M
5E	094	^	à,shift N
5F	095	_	♣, shift O, アンダースコア
60	096	`	抑音アクセント
61	097	a	
62	098	b	
63	099	c	
64	100	d	
65	101	e	
66	102	f	
67	103	g	
68	104	h	
69	105	i	
6A	106	j	
6B	107	k	
6C	108	l	
6D	109	m	
6E	110	n	
6F	111	o	
70	112	p	
71	113	q	
72	114	r	
73	115	s	
74	116	t	
75	117	u	
76	118	v	
77	119	w	
78	120	x	

## コードバイトの使用方法

### ASCII 参照表

HEX 値	10 進値/ コードバイト値	文字	相当するキーボード 操作
79	121	y	
7A	122	z	
7B	123	{	
7C	124		縦スラッシュ
7D	125	}	alt モード
7E	126	~	(alt モード)
7F	127	DEL	削除、抹消

### 拡張キーコード参照表

キー	At スキャンコード	PS2 スキャンコード	3151	プリフィックス/サフィックス値 16 進 = 10 進
↑	75H	48H	63H	80H = 128
↓	72H	50H	60H	81H = 129
→	74H	4DH	6AH	82H = 130
←	6BH	4BH	61H	83H = 131
Insert	70H	52H	67H	84H = 132
Delete	71H	53H	64H	85H = 133
Home	6CH	47H	6EH	86H = 134
End	69H	4FH	00H	87H = 135
Page Up	7DH	49H	00H	88H = 136
Page Down	7AH	51H	00H	89H = 137
右 Alt	11H	38H	00H	8AH = 138
右 Ctrl	14H	1DH	39H	8BH = 139
予約済み	00H	00H	00H	8CH = 140
予約済み	00H	00H	00H	8DH = 141
テンキー Enter	5AH	1CH	79H	8EH = 142
テンキー /	4AH	35H	00H	8FH = 143
F1	05H	3BH	07H	90H = 144
F2	06H	3CH	0FH	91H = 145
F3	04H	3DH	17H	92H = 146
F4	0CH	3EH	1FH	93H = 147

## コードバイトの使用方法

### 拡張キーコード参照表

キー	At スキャンコード	PS2 スキャンコード	3151	プリフィックス/サフィックス値 16 進 = 10 進
F5	03H	3FH	27H	94H = 148
F6	0BH	40H	2FH	95H = 149
F7	83H	41H	37H	96H = 150
F8	0AH	42H	3FH	97H = 151
F9	01H	43H	47H	98H = 152
F10	09H	44H	4FH	99H = 153
F11	78H	57H	56H	9AH = 154
F12	07H	58H	5EH	9BH = 155
数値 +	79H	4EH	00H	9CH = 156
数値 -	7BH	4AH	7CH	9DH = 157
数値 *	7CH	37H	00H	9EH = 158
Caps Lock	58H	3AH	14H	9FH = 159
Num Lock	77H	45H	00H	A0H = 160
左 Alt	11H	38H	00H	A1H = 161
左 Ctrl	14H	1DH	11H	A2H = 162
左 Shift	12H	2AH	12H	A3H = 163
右 Shift	59H	36H	59H	A4H = 164
Print Screen	複数	00H	00H	A5H = 165
Tab	ODH	OFH	0DH	A6H = 166
Shift Tab	8DH	8FH	65H	A7H = 167
Enter	5AH	1CH	5AH	A8H = 168
ESC	76H	01H	08H	A9H = 169
左 ALT Make	11H	36H	00H	AAH = 170
左 ALT Break	11H	B6H	00H	ABH = 171
左 CTRL Make	14H	1DH	00H	ACH = 172
左 CTRL Break	14H	9DH	00H	ADH = 173
*左 ALT + 1 文字	11H	36H	00H	AEH = 174
*左 Ctrl + 1 文字	14H	1DH	00H	AFH = 175
*Send			58H	C0H = 192
Clear			6FH	C1H = 193
Jump			76H	C2H = 194
Send Line			7EH	C3H = 195

## コードバイトの使用方法

### 拡張キーコード参照表

Erase EOF		6DH	C4H = 196
Send – Make Only		58H	C5H = 197

\*例:

1 番目の設定可能なプリフィックス = 174

2 番目の設定可能なプリフィックス = 065

スキャナは <left ALT Make> “A” <Left ALT Break> を送信

## デフォルトに戻す

---

「デフォルトに戻す」バーコードをスキャンしてください。このようにすると、以前の設定がすべて消去され、スキャナはデフォルトの通信プロトコルに戻されます。

### デフォルトに戻す

